

第28回オープンZoomセミナー（2023年9月例会）

日本倫理学会 連続ワークショップ 「東日本大震災から見えてきたこと」 アーカイブ・サイトについて

2023.9.24

1

本WSアーカイブ・サイト

<https://311andethics.daynight.jp/>

このページは、日本倫理学会で第64回大会（2013年）以来実施されてきた連続ワークショップのアーカイブサイトです。

日本倫理学会 連続ワークショップ「東日本大震災から見えてきたこと」

[「序文」に代えて](#) [実施一覧](#) [本サイト問い合わせ先](#) [日本倫理学会HP](#)

このアーカイブ・サイトについて

- このサイトは、2013年以来、日本倫理学会で実施されてきた連続ワークショップ「東日本大震災から見えてきたこと」についての情報をアーカイブすることを目的としています。第74回大会の本ワークショップ実施責任者によって独自に運営されています。
- 本ワークショップは、金井淑子・川本隆史・高橋久一郎の3名によって日本倫理学会の第64回大会（2013年）から実施されてきました。会員による「応募」企画という位置づけです。ワークショップに至る経緯は、[川本隆史さんによる「『序文』に代えて」](#)に記されています。
- この間毎年欠かさず実施され、2022年第73回大会で実施回数は10回を数えました。そして、2023年第74回大会の第11回目からは、実施者として上記3名に飯泉佑介・丹波博紀の2名が加わり、この2名が実施責任者を引き継ぎました。この引き継ぎの過程で、この「倫理（学）」上の試みがいかなるものであるかを確認し、検討の俎上に載せる必要を感じ、これまでの情報をアーカイブすることにしました。
- アーカイブされている各年の『大会報告集』の文章、『倫理学年報』所収の「会務報告」は、いずれも執筆（発表）者の許諾を得て掲載しています。収められている「関連資料」も、すべて執筆（発表）者からお知らせ・お送りいただいたものです。なお、第63回大会「共通課題」の報告者であり、第67回大会の本ワークショップで発表くださった宮野真生子さんは2019年に逝去されております。宮野さんの第67回大会「大会報告集」掲載文章については、ご遺族から承知いただきました。

（2023.8.12、9.10、9.17、第74回大会ワークショップ実施責任者記）

2

2

第74回大会_本ワークショップ情報

名称	東日本大震災から見えてきたこと（11）
日時	2023年 9月29日 （金） 18:00～20:00
形式	オンライン （Zoom） 【参加申込】 http://jse.trustyweb.jp/2023/09/742023.html
報告者	石原明子 （熊本大学文学部） https://www.let.kumamoto-u.ac.jp/staff/ishihara/
大会 報告集	アーカイブサイト直接リンク https://311andethics.daynight.jp/74-ws/

3

3

連続WS「東日本大震災から見えてきたこと」について

- 連続ワークショップ「東日本大震災から見えてきたこと」は高橋久一郎さん、金井淑子さん、川本隆史さんのもとで2013年から実施してきた。
- 前史として、第62回大会特別企画「倫理学（の研究者）は震災・原発事故にどう向き合えるのか、何ができる／できないのか」（11.9.30）、第63回大会共通課題「震災と倫理——絆・死別・物語りをめぐつて」（12.10.14）がある。
☞ 詳細は、川本隆史さん「『序文』に代えて、第62回大会予稿集・倫理学年報第61集。
- 共通課題統括質問者を務められた高橋さんが、年報で以下提案をした（☞連続WS開始の発端）。

【倫理学年報第62集より】

ある種の「罪」に関しては「時効」という考え方には反対もあるが、長い目で見れば「忘れる」ことは大事なことであると思う。しかし、「しばらく」は忘れてはならないことがある。私の提案は、今回の原発事故との関わりで、というのは論点が拡散してしまわないのであるが、「生命の倫理」の可能性と重要性について考えるワークショップを継続的に開催することである。もちろん、誰かがワークショップとして申し出れば行うことはできるわけだが、「誰かの申し出た企画」というだけでなく、日本倫理学会の継続企画として行うということである。今回の共通課題の委員である、金井淑子、川本隆史、神崎繁、そして私が一回ずつ「後始末」ということで担当すれば、四回はできる。あるいは、さらに、提題者である福嶋揚、宮野真生子、鷺田清一の各氏にもお願ひすれば、七回できる。

4

4

連続WSの引き継ぎについて

- 記憶定かではないが、第72回大会くらいに今後のことが少し話題に上がっていたように思う。丹波はその後、川本さんにチラッと加わりたい意思を（それとなく）伝えていたように思う。
- 第73回大会の前後、飯泉佑介さんと「企画に加わりたいね」と話していた。第73回大会後、正式にその意向を川本さんに伝える。
- 23.3.21、川本さんより第73回大会のWS実施について高橋さん、金井さん宛に連絡がいく。そのメールに飯泉・丹波の協力意向が記される（「CCの若手お二人より、本WSに何らかのかたちでご協力（さらには企画そのものの継承・発展へ関与）くださるとの意思表示を頂戴しております」）。
- 23.3.23、第1回打ち合わせ。23年度のWS応募が決まり、飯泉・丹波の参加が了解される。実施責任者も飯泉・丹波が引き継いではどうか、とご提案をいただく。
- 23.4.24、第2回打ち合わせ。
- 23.5.26、第3回打ち合わせ。これまでの蓄積を知らずに実施することの不安もあり、アーカイブ化を提案する。高橋さん、金井さん、川本さんより賛意をいただく。

5

5

【オープンZoomセミナーで考えたいこと①】なぜアーカイブ・サイトを作る？

- 勢い任せの思い付きであることは否めない。ただし、本WSについて大切なことが、長く続けられてきたという思いはある。その時間を《見える化》した方がよいし、その記録にもとづき、自分たち（飯泉・丹波）の現在の位置取りを明らかにし、今後を考えた方がよい、という思いがあった（川本さん「鷺田清一」論@現代思想・倫理思想史のテーマ？）。
- また、立岩真也さん（23.7.30逝去）と昨年から密にやり取りする時間があり、アーカイブの大切さに気づかされたこともある（「生を辿り途を探す 身体×社会アーカイブの構築」）。

【第74回大会予稿集より】

このワークショップは、倫理学や、これに携わる者たちが、震災・原発事故のいまだ終わらない「事実」と向き合う機会だったはずだ。それは端的に言えば、「事故」に対する自らの「位置」を省察するものであり続けてきたと言えるだろう。過去の実施記録をアーカイブ化し、その内容を「ふり返る」ことで、私たちはまずそうした、これまでの「位置」を知りたいと思う。

もちろん、これまでの「位置」を明らかにすることは、現在の、そしてこれからのは「位置」を見いだすための作業である。たとえば、今回から、飯泉会員、丹波会員がワークショップの運営に加わり、実施責任者を引き継いだ。このことを多少反省すれば、そもそも「引き継ぐ」ということ自体が、震災・原発事故の「いま」に対する私たちの「位置どり」を示している。では、「私たちはどこにいるのか」——。こう自らに尋ねてみても、これに応えることは簡単なようで簡単ではない。そのための「よすが」が必要である。

6

6

【オープンZoomセミナーで考えたいこと②】アーカイブ・サイトから見えてくることは？

- アーカイブ・サイト (<https://311andethics.daynight.jp/>) では、各年の大会報告集（高橋久一郎さんならびに各回報告者執筆）と、倫理学年報掲載の会務報告（高橋さん執筆）、さらには発表者から任意でお寄せいただいた関連資料（当日資料、関連論文）を収め、本WSの立体化・広がりが分かるようにした。
- アーカイブを作成し、ようやく本WSの性格・試みの軸が見えてきたように考える。本WS提案者であり、WSの実施責任者を一貫して務めてこられた高橋さんは以下のように記す。

【第64回大会報告集（WS第1回）より】

東日本大震災からのテーマという、何回か継続的に行いたいと考えているワークショップの全体としての狙いは、（私の「もくろみ」としては）『年報』に載せた昨年度の統一テーマの総括で述べたように、「生命」という価値を基軸に、これから先の倫理を考える上で、この大震災から見えてきた幾つかの核となる概念、例えば、リベラルといった理念やリスク分析といった手法の意義（と限界）を検討し、必要ならば大きな枠組みの中でのそれらの位置づけを考え直す可能性についての議論を試みることにある。

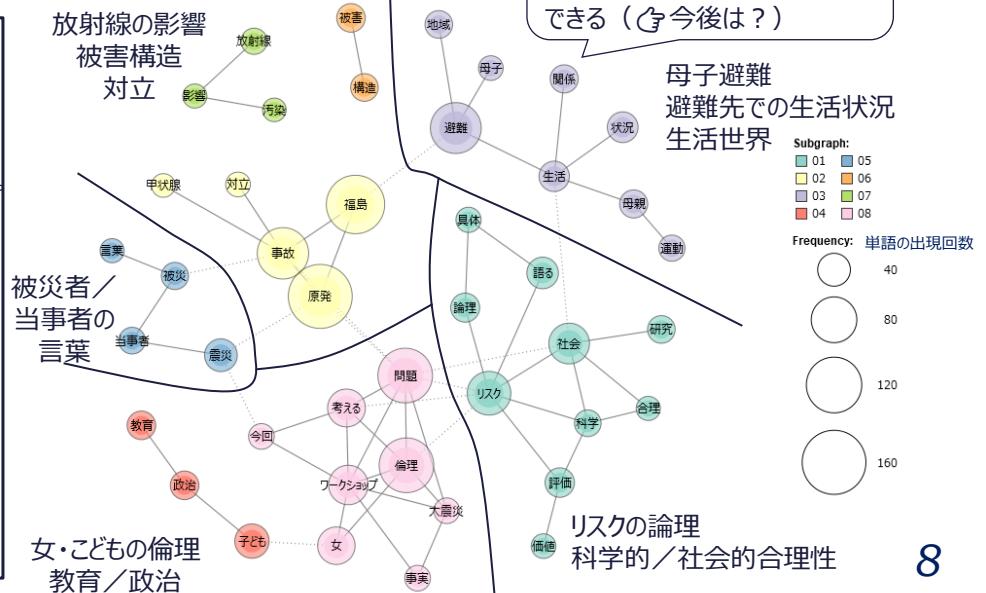
「余りに大きすぎる風呂敷」を括げていると思われようが、ワークショップだからこそ括げられる風呂敷だと考えている。その上で、今回のワークショップで狙いは、基本的にリベラルな枠組みのもとにある現代の倫理「学」において、「女・子どもの倫理」は無視されではならないマイノリティの「要求」であるだけではなく、むしろ「女・子どもの倫理」こそが、普遍的な倫理の枠組みである可能性を考えることにある。

7

7

【参考】本WSで実際に議論されてきたこと

- 右図はKH Coderによる定量テキスト分析の結果である。ここでは、頻出頻度の高い語同士の関係をネットワーク図（共起ネットワーク）で表現した。
- 方法としては、第64～73回の大会報告集の文章を1つにまとめ、その中にいかなる語同士の共起が見られるかを分析した。語数は上位60に絞っている。文単位で見られる共起を確認した。
- 語を結ぶ線種の違いは、線がグループをまたいでいるか否かによる。「母子避難」等のグループ名づけは発表者による。



8

8